

○議長（小林哲雄）

日程第6 議案第11号 平成26年度開成町一般会計予算から日程第12 議案第17号 平成26年度開成町水道事業会計予算までを開成町議会会議規則第36条に基づき、一括議題といたします。

それでは、最初に平成26年度当初予算提案趣旨説明を町長に求めます。

町長。

○町長（府川裕一）

趣旨説明の前に、議長にお願いがあります。1年前、この議会において、当初予算説明の前に、町長自身が新しい年度に対しての思いや、考えを述べてから当初予算に入ったかどうかというご提案をいただきましたので、今回からそのような形にしたいと思っておりますけれども、よろしいでしょうか。

○議長（小林哲雄）

許可します。

○町長（府川裕一）

町長になって、もうすぐ3年になりますけれども、振り返ってみると、つくづく私は運のいい人間なのかなと思います。町長になってすぐ、あじさい祭や、阿波おどり、足柄大橋の25年という区切りのイベントもありましたし、最大のことと言えば、12年間の開成町の将来像を決め、また、その計画をつくらせていただいて、昨年4月から新しい総合計画をスタートさせていただくことができたということは最大の、これはめぐりあわせだと思っていますので、すごく感謝をしておりますし、また、昨年4月から新しい総合計画が始まりまして、これを町民の皆さんと一緒に将来像に向かって一緒につくっていきたいという思いから、町民の皆さんと同じ目標に向かっていくために、三つのキーワードを掲げさせていただきました。日本一元気な町、日本一きれいな町、日本一健康な町と、この三つのスローガンをもとに、この1年たとうとじていますけれども、町民の皆さんからも日本一元気にするなら、こういうことをしたらどうかと、日本一きれいな町にするなら、こういうことをしたらどうかと、いろいろな意味の提案を多くいただき、1年を過ごすことができた。

これからも、この三つのスローガンをもとに町民の皆さんと、もちろん議会の皆さんともそうなんですけれども、開成町の未来をつくっていきたいと思っています。

この26年度、どういう26年度の年なのかなと考えたときに、もう来週には大井町と開成町を結ぶ足柄紫水大橋が開通の予定、それから紫水大橋の先、南小学校から、今、どんぐり会館まで道路ができておりますけれども、どんぐり会館から露木前町長のところまで、今、工事が行われております。これは6月開通予定で、今、県が一生懸命工事をしていただいております。これができ上がると、開成の南から北まで1本の背骨ができるんじゃないか。

南部地区も順調に進んで、夏ごろには供用が開始できるところまで今きております。これは先代の人たちのご苦勞があって、今、それが花咲こうとしている時期かなと。

ほかに大きな区切りとしては、4月29日には水辺スポーツ公園、パークゴルフ場

の開園20年を迎える。最大は来年2月1日に、町制施行60年、茅沼議員から一般質問でもありましたけれども、町制60年という考え方は、私、運がいいと言いましたけれど、私、町制50周年のとき、議長も実はさせていただきました。60年は町長で迎えさせてもらうという意味も含めてですけれども、50年のときは、50年間の過去の歴史をいろいろあのときは振り返って、いろいろな記録を掘り起こしたりして、町民の皆さんにお知らせしたと思うんですけれども、60年というのは過去じゃなくて、これから未来に対して新しく開成町は変わっていくと、そのスタートにしていかなきゃいけないと思っています。

ですから、26年度は開成町の将来、これから10年、20年後に、この区切りがあったから、というふうにしていかないと、我々は先代の人たちのおかげで、道路も、橋もできる、恩恵を受ける。我々は今度は次の世代のために、スタートをさせなきゃいけない町制60年の区切りの年だという、大変重要な26年度だと私は認識をしております。

そのためには、では何をしなければいけないか。開成町を新しく生まれ変わらせるためには、町制60年の記念式典ももちろん大事だけど、その1年、26年度に対して、茅沼議員が言われたように、一般質問のときにもお答えさせていただきましたけれども、地域ブランド戦略をきちんと立てなければいけない。

これは何で立てるか。あのときもお話しさせていただきましたけれども、総合計画の中できちんと1万6,700から1万9,300まできちんと人口の目標を立てて、立てたということは、それに対して、どうやってその目標を達成するか。これが地域ブランド戦略を立てる中で一番重要な目的だと私は思っています。

そのためには、開成町の今ある元気。これをもっともっと発信をして、神奈川県で一番人口が伸びている、子どもも増えている、新しい小学校ができたよ、今度は橋もできる、道路もできる、いいことをどんどん外にアピールをして、開成のイメージを上げて、開成の町を知って、今度は興味を持ってもらって、開成に来てもらうようにしなければならない。

来てもらうには、あじさい祭や、今やっているひな祭り、こういうイベントを通して、これもいかにアピールをし、ブランド化していくかによって、来てもらえるかどうか。この後の北部と南部のかかわってくると思う話にさせていただきますけれども、開成町に来ていただければ、開成町の町民の皆さん、自治会活動を見ればわかると思います。今のひな祭りもそうです、婦人会の皆さん、地域の皆さんもあじさい祭になれば、総出を上げてお客さんを迎えていただける。そういう開成町というのはすばらしい町だと。

開成町に来て、開成町の人と触れ合っていたいただければ、そこで開成町のファンになってもらう。

もう一つは、開成ブランドである、例えば、弥一芋とか、そういうものをもっともっと進化をさせて、開成町に来なければ買えないものをブランド化していく。

最終的には、やはり開成町に住んでみたいなど。首都圏から1時間もあれば来られ

る町の中で、神奈川県で一番小さな面積にもかかわらず、北部にはきちんと自然が残され、昔の原風景がある。心がいやされる場所がある。南部は開成駅周辺が、今、整備をされて、これからスマートタウン、いろいろ呼び方はあるかもしれませんが、駅が便利で、買い物もできて。

そのバランスのとれた中の開成町をつくっていくこと、また、それをどうやって今度は外にイメージを上げて、ブランド化をしていくか、それをこの26年度きちんとブランディングをして進めていくことが一番大事だと思う。

そのためには、一つの統一したスタイルというものを、顔というものをつくっていかなければいけない。それがブランディングになると思います。

これはやはり役場の職員だけでは難しい、外のプロの人たちの知恵をいただかないと、なかなかつくっていくには難しい。これはお金をかけていかないといけない。この予算も26年度には組ませていただいておりますけれども、そのような大切な1年、26年度と私は認識をしております。開成町としての将来がかかった区切りの大事な26年度だと思います。

そういった中で、今年、皆さんにもお見せしましたと思いますけれども、新しい1年間の、皆さんというか、若手の職員が、町長が昨年、元気、きれい、健康のキーワードをもとにお話をさせていただきましたが、これをつくってくれました。これをつくってもらいと、もうある程度わかるんじゃないかと思うぐらい、いいできだと私は思っております。

そういった中で、最初の2ページ目、3ページ目に、もっともっと元気な町にしたいと書かせていただきました。これは南部地区、先ほど言いましたように、開成駅周辺が大きく変わっていきます。人の動き、自転車も、車もそうです。大きく入っていきます。橋が開通して、あわせて連絡道路もできるということは、開成駅東口の整備もしていかなければいけない。今、見ていただくと、東口のロータリー、これをもっと人に安全でやさしく、東地区の人たちが住みよい環境の駅前に改めて、ここで投資をして、整備をしていきたい。

あわせて西側に降りていただくとわかりますけれども、今、信号で駅前通り線がとまってしまっています。26ヘクタールの区画整理ができ、そこにきちんとつなげていかなければいけない。あと200メートルぐらいですよ。これも26年度の中で新しい区画整理事業として調査・研究に入っていきたい、そのように思っています。

あわせて開成町に来ていただくための交流人口として、北部地域に力を入れていきたい。

瀬戸屋敷周辺、今、瀬戸屋敷に絡んで、なひな祭りもそうです。いろいろなイベントをやっていますけれど、これは単発的なものではなく、年間ここに外からお客さんに来ていただいて、最終的には南部に定住してもらえるというために、南部と北部をあわせて力を入れていかなきゃいけないと思っています。そのための整備が、瀬戸屋敷周辺の基本計画をつくらせていただいた。今、懇話会の中でも、北部に対してどういうものがあたらいいのか、北部でつくった農産物を売るところ、加工するところ、

また、その生産物を食べてもらう農家レストラン、いろいろなご意見がありますけれども、そういうものをどうやって、これから組み合わせながらつくっていくか、それを26年度進めていきたいと思っています。

その次のページには、日本一健康ときれいと元気との中で何をやっていくか。元気というのは、いつも言いますが、自治会の活動のことを話しますが、子どもたちの元気な声が聞こえるというのはすごく大事なことなので、26年度は特に元気と言うキーワードの中では、子どもたちの視点に立って、子育て支援、ファミリーサポートセンターなど、子ども関係の事業に対して力を入れていく。

きれいということに対しては、目に見えるごみの問題だけではなくて、環境にやさしいというエネルギー問題として取り上げさせていただいた小水力発電装置をあじさい公園の東側の水路に、これは町がつくるのではなくて、県の企業庁につくっていただくことができましたので、そのような形で進めていきたいと。

健康というのは、きちんとこれは具体的に一つ一つの事業を進めていかないと、簡単に成果が出るものではないと思います、健康に関して。だからこそ、高血圧の血圧をはかってもらえるような、一つ一つ具体的な今度は施策を、健康に対しては打っていききたい。1日10分以上体を動かしていただく、その動機付けのためには、開成町の特産品をプレゼントするポイントラリーというものも今度打ち出させていただきます。

そのような形で、26年度予算、町制60年に向けて、将来に向けて、大事な1年だという認識のもとに、今回予算を立てさせていただきました。そのような形で、今後審議をしていただきたいと思います。

また、質疑の中でお話をさせていただければと、それとともにもう一つ、先におわびをしておかなければならないんですけれども、昨年、開成町は人口が増えて、子どもが増えていくという中で、子どもの視点に立った機構改革をしていきたいという話をさせていただきました。

子どもに関することでいけば、福祉の分野と教育の分野、これがどうしても今、国もそうですけれども、縦割りの中で、機構が、組織ができており、一般の町民から見て、例えば、子ども子育て支援課に来れば、全て保育園でも、幼稚園でも、子どもの医療でも、そこで問題が解決できるような仕組みにしたいという話で、この4月から新しい機構改革の中で進めさせていただきたいというお話をさせていただきましたけれども、私の不徳のいたすところで、その準備ができなかったと。できなかった最大の理由は、やはり町長の方針徹底が甘かった部分、また、途中経過の点検も足りなかった。最終的な報告が出てきましたけれども、中途半端な形ということで、私は改めて1年申しわけないですけれども延ばさせていただいて、来年4月からは新しい機構の中でそこは取り組みさせていただきたいと。そのときの今度新しい指示としては、開成町らしい子ども子育ての方針を出させていただきました。

一つが、3歳から5歳までの幼児教育の充実を図る。そういう指示を出しました。今、町はどちらかというと、幼稚園関係の教育はしておりますけれども、幼稚園だろ

うと、保育園だろうと、開成町の子どもは同じですので、それにとらわれることなく、3歳から5歳の幼児教育を充実させる、そのための機構改革をつくってもらおう。

二つ目が、ゼロ歳から小学校3年までの子育て支援の充実強化を図ること。この二つ子育ての方針の中で、機構改革をどうしたらいいかという指示を、今度具体的に出しましたので、来年は大丈夫だと思っておりますので、この点においては、おわびをさせていただきたいと思っております。

それでは、例年どおり、平成26年度の開成町当初予算提案趣旨説明をさせていただきます。

平成26年度開成町当初予算の提案に当たり、町を取り巻く状況の認識と、町政運営に対する所信及び施策の概要を説明させていただきます。

平成26年度の日本の景気は、政府の政策効果から、家計や企業の消費等を中心として景気回復の動きが広がり、また、企業収益の増加から設備投資が持ち直し、雇用・所得環境が改善していくもとで、景気回復基調が続くと見込まれています。

これらの景気回復の動きを持続的な成長につなげていくため、政府は、大地震からの復興を加速させるとともに、デフレからの早期脱却と経済再生の実現に向けて全力で取り組み、「好循環実現のための総経済対策」を含めた経済政策パッケージを着実に実行するとしております。

県内においては、消費税率引上げ前の駆け込み需要増に対する反動が見込まれるため、一時的に景気も落ち込むことが予想をされます。しかしながら、国の好循環実現のための経済対策により、個人消費、企業業績や雇用情勢も次第に回復し、その後、景気も持ち直すと期待がされております。

開成町においては、このような消費税率の引上げに伴う影響下での予算編成となりました。

平成26年度は、第五次開成町総合計画の計画期間の2年目となります。計画期間である12年間を見据えて、中長期的な視点に立った計画的な行財政運営を行うことを基本に、将来の町の発展につながる事業に積極的に投資をし、町民との協働を基本として、元気なまちづくりを進める「元気創造予算」といたしました。

一般会計予算の総額は、49億6,482万9,000円で、前年度に比べ2.1%減の1億868万2,000円の減となりました。これは、主には前年度において実施した開成小学校大規模改修工事、松ノ木河原公園整備工事、中家村公園整備工事が完了したことに伴い事業費が減となったことによるものであります。

歳入では、町税が193万3,000円増の26億282万1,000円で、対前年度伸び率0.1%となり、歳入総額の52.4%を占めております。

内訳としましては、個人町民税は3,166万8,000円増の10億370万8,000円であります。国の経済対策により、景気回復、雇用や所得状況の改善が見込まれることなどから増収といたしました。

法人町民税は、主要法人の減収等に伴い3,944万円減の9,549万円の歳入を見込んでいます。また、固定資産税は、地価下落が落ち着いてきたことと家屋の新

築等が増えてきたことで、589万5,000円増の13億7,227万5,000円であります。

地方消費税交付金は、消費税率の引上げ前の駆け込み需要の増を考慮し、3,000万円増の1億8,500万円といたしました。

地方交付税は、平成25年度に引き続き普通交付税交付団体となる見込みで、地方財政計画の減額を考慮し、普通交付税は1,000万円減の2億7,000万円とし、特別交付税を加えた地方交付税全体では2億9,000万円の交付を見込んでおります。

国庫支出金は2,680万円増の5億4,865万7,000円としました。そのうち、社会資本整備総合交付金などの土木費国庫補助金は6,931万円を見込んでおります。また、開成小学校大規模改修工事の完了に伴い、公立学校施設整備費補助金は、5,050万円の減となっています。そのほか、消費税率の引上げに伴う臨時福祉給付金給付事業費補助金及び子育て世帯臨時特例給付金給付事業費補助金等は、5,686万9,000円の増を見込んでおります。

県支出金は、市町村自治基盤強化総合補助金の対象事業の事業費の減などから822万9,000円減の3億437万6,000円としております。

繰入金は3,019万4,000円増の1億8,151万6,000円を計上いたしました。主な内訳としては、中学校等の設備改修の財源として学校校舎等整備基金から900万円などのほか、財政調整基金から1億7,000万円を繰り入れます。

町債は1億8,490万円減の3億7,470万円としております。主な内訳としては、地方交付税と密接に関連する臨時財政対策債を前年同額の3億2,000万円、土木債は5,450万円減の2,090万円、町民センター外壁等改修工事の財源とする総務債が新たに2,870万円であります。

歳出では、中長期的な視点に立ち、これまでのまちづくりをさらにステップアップさせるための取り組みを進めます。

目的別では、総務費は、小水力発電設備の設置や町民センター外壁等改修工事等により7,130万円増の7億698万7,000円としました。

民生費は、前年度の福祉会館の空調機器更新工事費が皆減となった反面、介護保険事業特別会計繰出金及び後期高齢者医療広域連合負担金を増としたほか、消費税率の引上げに伴う臨時福祉給付金及び子育て世帯臨時特例給付金の給付事業に伴う増などがあり、全体では2,553万4,000円増の16億669万4,000円であります。

衛生費は、各種健診や予防接種の経費、ごみ収集・運搬・処理経費などで、健康づくり推進事業の「健康づくりdeポイントラリー」など、事業を新たに実施することや、町内のごみ置き場設置工事や西部清掃組合負担金の増などにより、1,638万7,000円増の4億7,873万9,000円であります。

商工費は、あしがり郷拠点整備事業として基本計画の策定業務などにより、921万1,000円増の6,062万8,000円です。

土木費については、前年度に松ノ木河原公園及び中家村公園の整備工事などの大規模工事があったため、全体としては、前年度に比べ5,589万7,000円減の6億6,262万円となりますが、開成駅周辺再整備事業や南部地区土地区画整理事業支援事業などの町の発展につながる事業に対して積極的に予算を配分いたしました。

消防費は、災害対策事業費、情報伝達体制強化事業費、地域防災力強化事業費などで、小田原市への消防事務委託料の増などにより1,322万1,000円増の2億7,769万円です。

教育費については、3か年計画で実施した開成小学校大規模改修工事が完了したことなどから、1億4,360万3,000円減の5億2,248万3,000円となりますが、開成幼稚園の園児用送迎バスの更新を2か年かけて行うものとし、初年度分の予算を配分しております。

性質別では、人件費は5,945万2,000円増の9億4,357万4,000円です。これは、定年退職者に係る退職手当特別負担金や職員採用に伴う増などによるものです。

物件費は2,211万9,000円増の7億8,029万5,000円です。これは、庁舎整備基本構想・基本計画策定業務に伴うものであります。

扶助費は、自立支援給付や自立支援医療給付などの増のほか、消費税率の引上げに伴う臨時福祉給付金及び子育て世帯臨時特例給付金の給付事業などにより5,361万2,000円増の9億5,979万2,000円です。

普通建設事業費については、開成駅周辺再整備事業として駅東口ロータリー改修設計業務、南部地区土地区画整理事業関連の支援、町道の舗装工事などの事業を実施はしますが、公園整備事業や開成小学校大規模改修工事などが完了したことに伴い、前年度に比べ2億3,464万2,000円減の4億1,415万8,000円です。

特別会計の中では、国民健康保険特別会計が8,060万3,000円増の16億4,024万円です。療養給付費が伸びていることや、高額療養費の増、後期高齢者支援金の増などに起因するものであります。

下水道事業特別会計は4,787万4,000円減の6億2,355万6,000円です。これは、道路整備工事の減に伴う下水道工事の減によるものであります。

介護保険事業特別会計は、介護サービス給付の増が見込まれることから7,670万6,000円増の8億6,189万円でありあります。

後期高齢者医療事業特別会計は、医療費の増加に伴い、広域連合への負担金が増となったことにより、551万5,000円増の1億6,017万6,000円でありあります。

そのほか、給食事業特別会計を合わせた五つの特別会計の総予算額は1億2,053万円増の33億7,642万3,000円です。

それでは、平成26年度予定事業の概要について、第五次開成町総合計画の八つの基本政策に沿って申し上げたいと思います。

#### 【1 町民主体の自治と協働を進めるまち】

防犯、防災、福祉、教育などの各分野で多様化する町民ニーズに対応し、町民同士の共助を大切にした町民主体の自治を進めるために、これまで以上に町民、自治会、企業などの多様な担い手との協働によるまちづくりを進める必要があります。

本年度も、自治会活動の活性化に向けた自治会交付金による財政支援を行います。また、そのほか、地域の人材育成を支援し、地域活動の活性化を目的とした地域リーダー育成研修会を引き続き開催をします。

開成町では、平成27年2月1日に町制施行60周年を迎えます。記念式典をはじめとして日本一元気な町を目指し、町民とともにさまざまな記念事業に取り組みます。

## 【2 未来を担う子どもたちを育むまち】

次代の社会を担う子どもを安心して生み育てられるように、良好な生活環境の提供など、子育て支援を推進していくことが必要であります。

出産や育児の環境づくりとして、健康教育、健康診査、保健指導、家庭訪問等、妊娠中から乳幼児期までの一貫した母子保健サービスを提供します。また、子育てに関する不安や悩みを解消できるように講習等を実施し、子育て親子の交流や情報交換の場を提供いたします。

本年度新たに、特定不妊治療費の助成を県の助成事業に上乘せし、充実をさせます。あわせて、不育症治療費については、町助成事業として実施をいたします。

新規事業として、安心して充実した子育てライフの支援をするため、地域で子どもの預かり等の援助をする人と援助を受けたい人からなる組織をつくり、相互の調整を行う、「ファミリー・サポート・センター事業」を実施いたします。

放課後児童クラブについては、利用者が増加しているため、これまでの2か所に加え、新たに開成南小学校の教室を利用し、計3か所で実施をいたします。

「のびのび子育てルーム事業」については、週2回の実施に拡充し、新たに3歳児のみの教育の場を加え、3歳児のすこやかな成長支援や保護者の子育ての喜びと共感が持てる仲間づくりを促進します。

放課後子ども教室推進事業では、開成小学校に加え、新たに開成南小学校においても放課後子ども教室を開催し、放課後の児童の安全で安心な活動拠点を設け、遊びや学びを通して児童の健全育成を図ります。

幼児期の教育と保育、子育て支援サービス、母子保健事業等について、総合的に進めるため、「開成町子ども・子育て支援事業計画」を策定いたします。

学校環境整備としては、生徒の安全確保のため、文命中学校に防犯カメラを設置いたします。

## 【3 健康を育み町民がいきいきと暮らせるまち】

日本一健康な町を目指して、健康づくりや保健予防の事業に取り組みをいたします。

本年度からの重点的な取り組みとして、高血圧予防を中心に、健康意識の向上と生活習慣病を予防し、健康寿命の延伸を目指します。自分の血圧を知るために「1日1回は血圧を測ろう」をスローガンに、血圧測定の実践化を図る取り組みや、運動の普及啓発のため日常生活活動時間を10分間増やすことを目標として、「プラス・テン」

運動を進めます。

また、健康を意識した生活改善のきっかけになるように、健康に関する事業への参加などでポイントを貯めて、抽選で町の特産物などの賞品が当たる「健康づくり d e ポイントラリー」を始めます。

新たに疾病の早期発見や予防のために、40歳から70歳までの5歳刻みの年齢の方を対象として、胃がんリスク検診を実施いたします。

スポーツを推進するため、開成町総合型スポーツクラブを軸として、スポーツを通じた地域コミュニティの醸成を図りながら、誰もがスポーツに親しむことができる環境を整備いたします。そのほか、本年5月28日に「開成チャレンジデー2014」を実施いたします。チャレンジデーとは、人口規模がほぼ同じ自治体同士が、午前0時から午後9時までの間に、15分間以上継続して何らかの運動やスポーツなどの身体活動を行った住民の参加率を競い合う住民参加型のイベントであります。チャレンジデーへの参加を通じ、町民の運動の習慣化や健康増進を図ります。

施設整備事業としては、生涯学習の活動拠点である町民センターの外壁等改修工事や空調設備改修工事を実施いたします。

#### 【4 安全で安心して暮らせるまち】

切迫性が指摘される地震や近年多発する水害などの災害に対し、防災、減災体制の強化が必要であり、町民、民間企業などを含め幅広い防災体制の強化を進めます。

本年度は、携帯用AED（自動体外式除細動器）を各自主防災会に配備いたします。また、前年度に引き続き、災害時に指揮をとれる地域の防災リーダーの育成を主体とした防災識座を開催し、災害時の対応力強化に努めます。

減災対策としてブロック塀倒壊予防のため、引き続きブロック塀の除去工事費用に対して補助をいたします。

また、災害時の対応策の一つとして、災害時要援護者の受け入れについて、新たな民間福祉施設の事業者との調整を進めます。そのほか、町内全戸に非常用飲料水袋を配布もいたします。

防犯対策においては、町民が安全で安心して暮らせるよう防犯体制を強化いたします。

本年度は、駅利用者の増加が見込まれるため、安全面の強化などから、開成駅前に防犯カメラを設置いたします。また、設備面の整備だけではなく、防犯パトロールを実施している地元有志の安全サポーターなどの地域組織と連携しながら防犯体制を強化していきます。

交通安全対策としては、子どもたちの交通安全意識の向上を図るため、引き続き小学4年生を対象に自転車運転免許証の交付事業や自転車の安全な乗り方教室を行います。

新たに中学校において、スタントマンが事故現場を再現して見せる形式の交通安全教室「スケアード・ストレイト」を実施し、中学生の交通安全意識の向上を図ります。

#### 【5 自然が豊かで環境に配慮するまち】

地球温暖化対策やエネルギー対策などから原子力や化石燃料に頼らない、新エネルギーへの転換が求められており、環境に配慮した取り組みを進めます。

前年度まで実施していた住宅用発電設備設題工事費の補助や生ごみ処理機購入費助成などについてリニューアルをし、新たに「エコバリューセット」の補助制度を創設し、電力使用の効率化が可能となる家庭内のエネルギー管理システムであるHEMSを導入する町民に対して設置費の補助を行います。

また、豊かな水資源を活用し、県内初となるらせん式水車で発電する小水力発電設備を設置いたします。

そのほか、省エネルギー改修工事などの一つの事業形態であるESCO事業を利用し、町内の既設の防犯灯約1,500基について、従来よりも省電力で長寿命であるLED防犯灯に更新をいたします。

日本一きれいな町を目指し、清潔で美しいまちづくりのために、町民、自治会、企業などと連携し、地域の環境美化運動として、引き続き「かいせいクリーンデー」や「環境防災フェア」を実施し、環境美化の啓発に努めていきます。

#### 【6 都市の機能と景観が調和するまち】

良好な環境と安全で快適な新市街地を形成するため、組合施行により南部地区では土地区画整理事業が進められてきましたが、本年度中の完了に向けて引き続き支援をいたします。

3月に「足柄紫水大橋」、また6月には都市計画道路「山北開成小田原線」が開通することに伴い、町内道路の利用者や開成駅の利用者数も増加することが予想されることから、安全面や機能面を考え、駅東口ロータリー改修なども含め、開成駅周辺の再整備に着手をいたします。そのほか、町内の道路の補修整備も安全面を考慮しながら順次進めいきます。

上水道、下水道については、道路整備にあわせて整備を進めます。特に上水道に関しては、下水道整備に伴う布設替工事のほか、耐震改修のための浄水場ポンプ井実施設計や計装盤更新工事など、水道水の安定供給の確保を図ります。

北部地域のあじさい農道については、きれいなアジサイの花が咲き、あじさい祭が盛り上がるよう、引き続き植替えや施肥を行い適切な管理に努めます。

#### 【7 個性豊かな産業と文化を育成するまち】

個性豊かな町の産業を育成するため、農業や商工業の活性化を図ります。

農業を持続性あるものとするため、所得の向上などが図れるように、農業者が食品加工や流通・販売などの他産業と連動し、新たな産業を創出するなど引き続き農業の6次産業化に取り組みをいたします。

本年度は、農家の抱える担い手不足の解消と継続した農業を行っていくために、「人・農地プラン」を策定します。そのほか、引き続き、農産物などのブランド化や商品化を行う団体等への補助やブランド認定を拡大いたします。

商工業の活性化を図るため、北部地域にあるあじさい農道とあしがり郷瀬戸屋敷を拠点として、引き続きあじさい祭を開催いたします。目で見ると観光だけではなく、体

験農業などの体験型観光も取り入れて、地元企業と連携しながら、開成町に親しみを持ってもらえるようなイベントを実施いたします。

あしがり郷瀬戸屋敬を中心とした交流・観光拠点の整備を進めるため、「あしがり郷拠点整備基本計画」を策定し、地域の活性化や地場産業の発展を図ります。

#### 【 8 効率的な自治体経営を進めるまち】

魅力ある地域づくりを進めるためには、政策形成の担い手である職員の能力向上が必要であります。政策形成やさまざまな行政課題に対応できる活力ある職員を育成するため、自治会長による職員研修をはじめとして、引き続き職員向けの各種研修を実施いたします。

行政機能の充実や災害時の防災拠点機能を維持するという観点から、拠点となる施設の整備が必要です。役場庁舎は、建設から40年以上が経過し、老朽化やバリアフリーがなされていないなどの課題があります。役場庁舎の整備を進めていくため、本年度は、庁舎整備基本構想策定委員会を設置し、「庁舎整備基本構想・基本計画」の策定を行います。

以上、平成26年度当初予算に盛り込んだ施策の概要について述べさせていただきました。

開成町は、平成27年2月1日に町制施行60周年を迎えます。この60年の間には町を取り巻く状況も大きく変わりましたが、町は発展し続けてきました。これは、町民と一体となってまちづくりを進めてきた結果であります。

「町民が主役」という原点を忘れることなく、まちづくりを進めてまいります。

今日、高齢化の進展や町民ニーズの多様化など、今までの方法では対応しきれない課題も多くなっております。自治会活動や町民の自主活動が活発な町の特長を最大限に生かし、さらに町民パワーを発揮しやすい環境を整えて協働によるまちづくりを進めていきたいと思っております。

「足柄紫水大橋」の開通や都市計画道路「山北開成小田原線」の開通など、町の状況は今また大きく変わろうとしております。この変化をチャンスと捉え、多くの皆さんが開成町に住みたいと思ひ、開成町で育った子どもたちが大人になっても住み続けたいと思う町にしていくことが私の責務と考えております。

新年度の施策を進めるに当たり、識会の皆様には、一層のお力添えをいただきますようお願い申し上げます。

以上で、平成26年度開成町当初予算案の説明とさせていただきます。

どうぞよろしくご審議お願いいたします。

○議長（小林哲雄）

暫時休憩といたします。再開を13時30分といたします。

午前11時50分